

“ふるさとちば”のための政策推進を



# たけだ正光県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

## 新流山橋

# 26年度に事業着手!

## 側道区間 1月から用地取得に着手

流山市選出で、県議2期目ながら論客として評価の高い武田正光(たけだ・まさみつ)県議は、12月定例県議会でも一般質問に登壇しました。武田県議の登壇は、初当選以来、今回で13回目。若手としては、異例の多さと言われています。

今回は、流山市にとって最大の懸案とされてきた(仮称)新流山橋の架橋について、森田知事から直接、「来年度から本格的な事業化(事業着手)を目指す」との答弁を引き出し、注目されました。これに対し、武田県議は「1日も早く、5年以内にと」と重ねて要望し、地元の声を強く訴えました。

## 流山の若い力を県政発展に



新流山橋の架橋問題で訴える武田正光県議

## 12月県議会一般質問に登壇

武田議員 流山市は県内でも有数の人口増加地域となっています。昨今、少子高齢化が問題になっている中で、この若い力を県政発展にいかにつ活用していくのか、この若い力をいかに伸ばしていくのか、私の地元である流山市、そして千葉県にとっても大切だと思っています。

森田知事 県道越谷流山線は、市街化の進展が著しい東葛飾地域と埼玉県東部地域を結ぶ幹線道路ですが、江戸川に架かる流山橋を中心に、激しい渋滞をきたしており、(仮称)新流山橋を含む新たなバイパスの整備が急がれているところです。そこで今年度は、まずは千葉県側の側道区間を先行的に事業化し、来月から用地取得に着手することとしています。

また、江戸川を渡る架橋を含む、2キロメートルのバイパスについても、これまで埼玉県とともに具体的な設計を進めてきたところであり、来年度から本格的な事業化を目指してまいります。と考えております。

(仮称)新流山橋の概略図



○●●● 平成26年度事業化 予定! 約2km うち(仮称)新流山橋は約450m  
●●●● 今後建設予定道路

**要望** 一般質問や予算委員会質疑において、今まで15回登壇してきましたが、そのうち10回の(仮称)新流山橋を取り上げており、「やむを得ない」まで来たかという、うれしiousです。

事業着手後も多くの手続きがありますが、何よりも1日も早く橋を架けることを念頭に置いて、あらゆる施策を講じていただきたい。

事業化して5年以内の完成をお願いしたい。どんなに遅くとも東京オリンピックまでお願いいたします。

流山市の協力が必要な場合は、私も市に掛け合いたい。地元住民の方々のご意見をいただきながら、とにかく力強く進めていただきたい。引き続きよろしくお願ひします。

●流山市や県政のご相談、ご要望をお聞かせください 〒270-0163 流山市南流山4-1-8-1105  
**たけだ 正光** 県議事務所 TEL.04-7159-0518 FAX.020-4666-1033

ホームページ たけだ正光 <http://www.takeda-hashiru.com>

●たけだ正光ブログもご覧下さい。毎日更新中!! <http://takedama.exblog.jp/>

公職選挙法により、年賀状等の時候の挨拶が制限されています。このレポートをもって新年の挨拶とさせていただきます。

# 木地区区画整理事業

## 土地需要の拡大が期待

武田議員 つくばエクスプレスは開業後、乗車人員が着実に増加しており、さらに、アベノミクスに象徴される経済対策により、市況に好転の兆しが見えてくるなど、区画整理事業にとっても明るさが出てきています。

この機会を逃さず、残りの保留地の早期処分を進めるとともに、確実に平成30年度に事業完了が図られることが、私も含め、多くの市民の願いであります。流山市木地区区画整理事業の進捗状況はどうか。また、今後どのように進めていくのか。

武田議員 小児救急患者は、少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、子どもを巡る家庭環境の変化などの理由から、多くの軽症患者が救急病院に集中する傾向があります。このため、救急医療機関の負担が増大し、小児科医が疲弊している状況があります。



答弁の後、再質問に立つ武田県議

武田議員 小児救急患者は、少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、子どもを巡る家庭環境の変化などの理由から、多くの軽症患者が救急病院に集中する傾向があります。このため、救急医療機関の負担が増大し、小児科医が疲弊している状況があります。

武田議員 県は、小児救急電話相談事業の普及にどのように取り組んでいるのか。

森田知事 県では、今後出産を控えている方に対し、子どもの急病時の対応方法を記載した小児救急ガイドブックや電話相談連絡先である「#8000」を記載した母子手帳貼付用啓発シートを作成し、母子手帳等の交付時に合わせて配布するよう、市町村に依頼しているところです。

また、すでにお子さんをお持ちの方に対しては、小児救急電話相談事業について、県民だよりへの掲載を行うと

## 小児救急電話相談もっと普及を！

武田議員 県は、小児救急電話相談事業の普及にどのように取り組んでいるのか。

武田議員 県は、小児救急電話相談事業の普及にどのように取り組んでいるのか。

森田知事 県では、今後出産を控えている方に対し、子どもの急病時の対応方法を記載した小児救急ガイドブックや電話相談連絡先である「#8000」を記載した母子手帳貼付用啓発シートを作成し、母子手帳等の交付時に合わせて配布するよう、市町村に依頼しているところです。

また、すでにお子さんをお持ちの方に対しては、小児救急電話相談事業について、県民だよりへの掲載を行うと

ともに、市町村や民間の子育て情報誌等へ掲載を依頼するなど、周知を図っているところであり、引き続き事業の普及に努めてまいりたいと考えています。

小児救急電話相談事業は、いわゆる0・5次救急として声の大きいものだと思っています。平成24年度は相談件数が19569件、1日平均で53.6件、これだけの相談件数があります。結果として、軽症の方が病院に行かなくても済むようになっています。

新聞の記事によると、まだまだ知られていないようであり、もう少しPRしてもいいと思います。

武田議員 県は、小児救急電話相談事業の普及にどのように取り組んでいるのか。

## 放課後児童クラブ(学童保育)の整備支援

武田議員 本県における放課後児童クラブの整備は、この1年での程度進んだのか。また、放課後児童クラブの待機児童の状況はどうか。

健康福祉部長 県では、放課後児童クラブの環境整備や待機児童解消のため、放課後児童クラブ整備事業などの補助事業を通じて、市町村が行う放課後児童クラブの整備を促進しています。平成24年度の実績では、966人の定員増を図ったところです。なお、今年度は579人分の定員増を図ることとしています。

待機児童の状況について、平成25年度5月1日現在、県全体で863人となっており、前年度同期と比較して218人の増加となっています。

武田議員 県として、引き続き補助制度の活用を市町村に働きかけ、クラブの整備促進を図ってまいります。

武田議員 県では、災害救助犬による探索の効果について、どのように考えているのか。また、災害救助犬を育成する団体とどのように連携していくのか。

防災危機管理部長 災害救助犬による探索は、阪神・淡路大震災をはじめとする国内外の災害で活動例があります。

武田議員 県は、災害救助犬による探索の効果について、どのように考えているのか。また、災害救助犬を育成する団体とどのように連携していくのか。

## フォト特集 たけだ正光県議の2013年の活動を振り返って



3月 東北被災地視察



6月 県議会一般質問



7月 環境生活警察常任委員長就任



10月 新流山橋建設要望活動



12月 県議会一般質問

## 武田正光県議 Profile

### 略歴

- 昭和44年8月9日生まれ
- 昭和57年 流山市八木南小学校卒
- 昭和60年 流山市八木中学校卒
- 昭和63年 専修大学松戸高等学校卒
- 平成4年 中央大学商学部卒
- 平成19年 県議会議員初当選
- 平成23年 県議会議員再選

### 現職

- 県議会 環境生活警察常任委員会委員長
- 自民党県連 広報本部副本部長

## 武田まさみつ県議会レポート

武田議員 小児救急患者は、少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、子どもを巡る家庭環境の変化などの理由から、多くの軽症患者が救急病院に集中する傾向があります。このため、救急医療機関の負担が増大し、小児科医が疲弊している状況があります。

武田議員 小児救急患者は、少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、子どもを巡る家庭環境の変化などの理由から、多くの軽症患者が救急病院に集中する傾向があります。このため、救急医療機関の負担が増大し、小児科医が疲弊している状況があります。

武田議員 小児救急患者は、少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、子どもを巡る家庭環境の変化などの理由から、多くの軽症患者が救急病院に集中する傾向があります。このため、救急医療機関の負担が増大し、小児科医が疲弊している状況があります。

武田議員 小児救急患者は、少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、子どもを巡る家庭環境の変化などの理由から、多くの軽症患者が救急病院に集中する傾向があります。このため、救急医療機関の負担が増大し、小児科医が疲弊している状況があります。

武田議員 小児救急患者は、少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、子どもを巡る家庭環境の変化などの理由から、多くの軽症患者が救急病院に集中する傾向があります。このため、救急医療機関の負担が増大し、小児科医が疲弊している状況があります。

武田議員 小児救急患者は、少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、子どもを巡る家庭環境の変化などの理由から、多くの軽症患者が救急病院に集中する傾向があります。このため、救急医療機関の負担が増大し、小児科医が疲弊している状況があります。

武田議員 小児救急患者は、少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、子どもを巡る家庭環境の変化などの理由から、多くの軽症患者が救急病院に集中する傾向があります。このため、救急医療機関の負担が増大し、小児科医が疲弊している状況があります。